



県内初！尺八準師範の中学生

青木 梨沙 さん (中村)



▶ 大師範・榎野武士さんの指導を受ける青木さん



昨年、青木梨沙さんは、尺八の「準師範」の試験に挑戦し、見事合格。中学生が「準師範」となるのは、県内で初の快挙です。

青木さんと尺八との出会いは、小学4年生の春休み。実家のお店にきていた尺八都山流大師範・榎野武士さんに勧められ吹いてみました。尺八は最初から音が出ないものですが、青木さんはすぐに音を出せました。「音が出るんやったら吹きにこんか？」と誘われ、通い始めました。小さい指には大きく重い尺八でしたが、『春の小川』や『茶つみ』など、10日ほどで5・6曲が吹けるようになり、今では50〜60曲も吹けます。

「好きな曲は、高くてリズムがいい曲。童謡や、『さざんかの宿』『アンコ椿恋の花』とか、流行歌も好きです。」

表に4つ裏に1つ穴の空いた尺八は、あの角度や息の吹き方でも音が変わります。するどく吹いて高い音が優しく吹いて低い音を出し、首を振って音を揺らします。師匠の榎野さんによると、「最初は5分吹いただけで目の前がクラクラします。『首振り3年、ふうふう3年』と言って、一生懸命3年やればできるようになります。」

青木さんは、しだいに大きな音量が出せるようになり、強弱や揺れが入って、尺八らしい味のある音が出せるようになりました。

▼ 都山流尺八の階級

初伝	中伝	奥伝	皆伝	準師範	師範	大師範
----	----	----	----	-----	----	-----



▲ 尺八の楽譜。練習した跡がびっしり。

7月29日(木)の住吉まつり『素人名人S-1グランプリ』にも参加を予定しています。ぜひ青木さんが吹く尺八の音色を聞いてみてください。

「毎日家で練習して、週末は師匠に教わります。吹かない日があると、音が途切れたりかすれたり、悪い音になってしまいます。修学旅行から帰って音が悪くなっていたときはびっくりしました。練習はしんどいけど、澄みきったイイ音が吹けると嬉しいですよ。」

師匠の榎野さんの雅号「嵐将山」と、青木さんの名前の一字を取って、「嵐将梨」の名をもらい、現在は弟子をとれる「準師範」になりました。

7月には都山流の県のコンクールがあり、『準師範』として初めて参加します。目標は控えめに上位入賞。ついたての向こうで聴く審査員に、音だけで挑みます。

普段はおしゃべりが好きなよく笑う女の子。「人前で吹くのは緊張して唇が震えます。でも喜んでもらえるのが一番嬉しい。」ボランティアで県内各地の施設や病院へ出掛けて演奏している青木さん。将来は尺八を活かせる仕事をしたいと夢を語ってくれました。